

# 概要

## 2015年 善光寺御開帳記念講座 【続・古典を読む -歴史と文学-】

### 第1回 越中立山と善光寺 - 仏の道がつなぐ霊場と信仰 -

開講日時： 4 / 11 (土) 午後2:30～4:20

講義会場：金鵝会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：富山大学 人文学部 歴史文化コース 教授  
鈴木 景二 (すずき けいじ) 先生

概要：北アルプスの北部に位置する立山連峰は、山岳信仰を基盤とする平安時代以来の霊場であった。そこには観音信仰・地獄の見立て・女人救済、さらに阿弥陀信仰など多様な信仰があった。いっぽう善光寺は白鳳時代以来の歴史をもち、一光三尊の阿弥陀如来を本尊とし、女人救済を特長とする日本の代表的霊場として多くの人びとの信仰を集めてきた。

立山は、関西から北陸を通過して善光寺へ向かう沿道にいちするので、平安時代末の僧重源が白山・立山・善光寺と歩んだように、続けて参詣する人びとがいた。彼らの交流などにより善光寺の信仰が立山の信仰に影響を与えたことを、牛山佳幸氏が指摘している。

この講座では、両霊場の信仰をふり返り、牛山氏の研究を参照しながら、立山に残された善光寺信仰の痕跡を確かめ、双方の影響、両地を結ぶ交通路のあり方などについて考えてみたい。

新幹線の開通によって長野と富山の交通が注目されるいま、改めてこの地域を結ぶ道の歴史を見直すきっかけになれば幸甚である。

# 概要

## 2015年 善光寺御開帳記念講座 【続・古典を読む -歴史と文学-】

第2回「縁起と史実：善光寺創建の謎を解く」  
—十卷本『伊呂波字類抄』 「善光寺古縁起」  
を如何に読むと史実が見えてくるか—

開講日時： 4 / 18 (土) 午後2:30～4:20

講義会場：金鷄会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：東京大学 史料編纂所 古代史料部門 教授

田島 公 (たじま いさお)先生

概要：古代の善光寺の創建に関しては、奈良時代や平安前期の史料に記述がないが、院政期に編纂されたと思しき十卷本『伊呂波字類抄』に見える「善光寺縁起」が「奈良古縁起」の内容を含むものであることを確認したあと、奈良時代の縁起が院政期に判りやすいように書き直されたことに注目し、「善光寺縁起」を丁寧に読み、縁起から史実を解明する。

何故、「仏教公伝」(欽明13年〔552〕)の際に、百済から日本(倭国)もたらされたと伝える仏像が、50年間「京底流転」した後、若麻績東人が推古10年(602)に「麻績村」に一時安置して、40年後の皇極2年(642)更に「水内宅」に移したのか、そして、こうした「縁起」がどうして166年後の神護景雲2年(786)に報告されることになったのか。十卷本『伊呂波字類抄』の「善光寺」の項の構造と用いられた用字に注目し、「麻布」という視点からその謎を解明する。

# 概要

## 2015年 善光寺御開帳記念講座 【続・古典を読む -歴史と文学-】

### 第3回 皇極(斉明)天皇の実像と 『善光寺縁起』

開講日時： 4 / 25 (土) 午後 2 : 3 0 ~ 4 : 2 0

講義会場：金鷄会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：関西大学 文学部 総合人文学科

日本史学専修 教授

西本 昌弘(にしもと まさひろ)先生

概要：善光寺の『古縁起』では、長野の善光寺の創建は皇極天皇元年(642)のこととされ、中世以降の『善光寺縁起』には、地獄に落ちようとする皇極天皇が、善光寺如来や本田善佐に救われたという話がみえる。

皇極天皇は推古天皇につぐ第二の女帝で、蘇我氏の全盛期に即位し、蘇我氏が滅亡した大化改新時に譲位する。その後、再び皇位につき(斉明天皇)、息子の中大兄皇子らとともに、飛鳥中枢部の開発や百濟救援軍の派遣などに手腕を発揮して、九州の朝倉宮で亡くなった。飛鳥における最近の石神遺跡や酒船石遺跡などの発掘調査では、斉明天皇の時代の巨大な迎賓館や庭園遺跡などが姿を現してきている。

本講座では、皇極天皇や斉明天皇の時代とはどのような時代であったのかをお話しし、後世の『善光寺縁起』において、なぜ天皇が地獄に落ちる話が出来上がったのかを考えてみたいと思う。

# 概要

## 2015年 善光寺御開帳記念講座 【続・古典を読む -歴史と文学-】

### 第4回 善光寺信仰の広がり - 女人救済と善光寺如来 -

※5月23日に変更になりました。

開講日時：~~5/16~~(土) 午後2:30～4:20

講義会場：金鵝会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：立命館大学 文学部 人文学科

日本史学専攻 教授

本郷 真紹(ほんごう まさつぐ)先生

概要：善光寺の由来を記す「善光寺縁起」には、インドの月蓋長者の娘で、阿弥陀如来に命を救われた如是姫の話や、本田善光の子息・善佐が地獄に引き立てられようとする皇極女帝に出会い、阿弥陀如来の功德で女帝を蘇生させたことで、善光・善佐が女帝の庇護を受けたとするなど、女人救済に縁の深い話が窺われます。それ故、女人差別の意識の強い仏教の寺院でありながらも、善光寺は女人祈願の寺院として栄えました。本講座では、この縁起に見える善光寺創建の由来を検証すると共に、改めて日本における女性と仏教の関係を考えてみたいと思います。